

# 経営比較分析表（令和4年度決算）

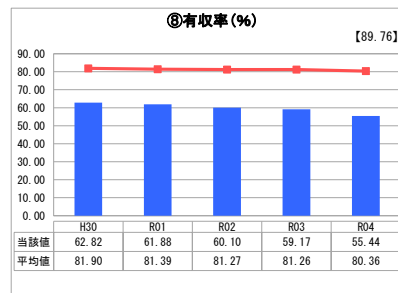
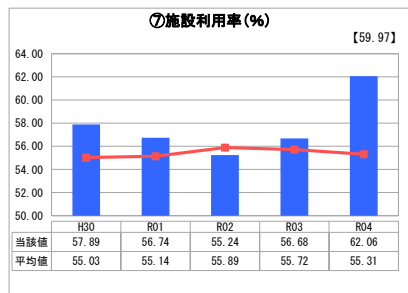
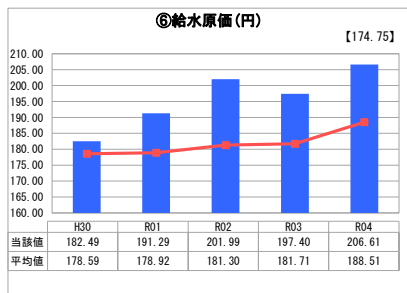
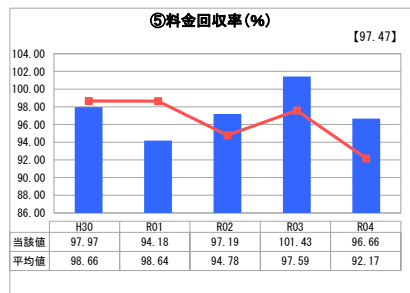
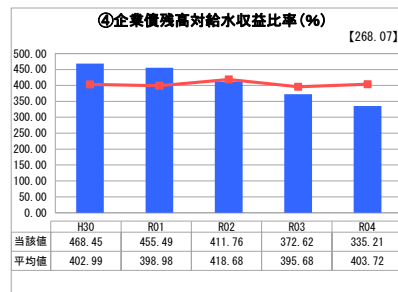
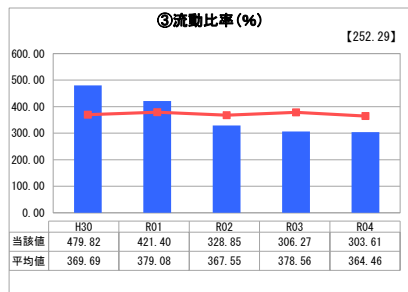
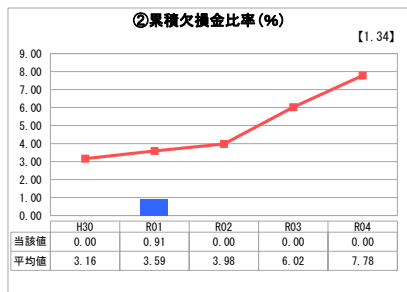
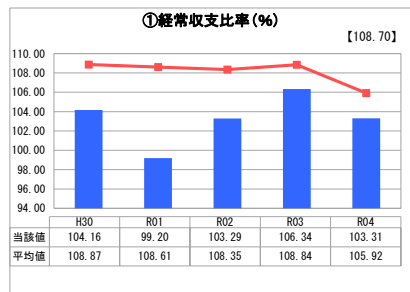
栃木県 那須町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	71.72	82.14	3,710	

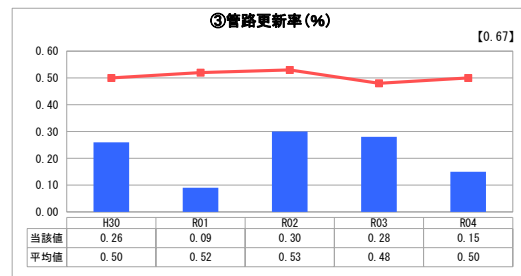
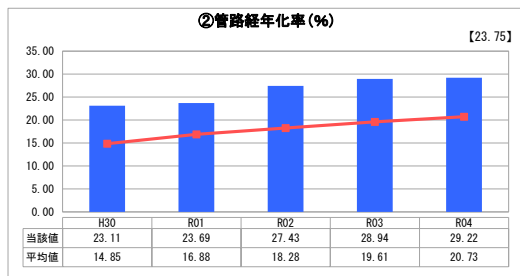
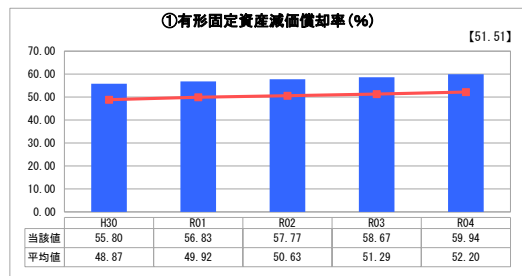
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
24,281	372.34	65.21
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
19,871	185.01	107.41

グラフ凡例
■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）
【】 令和4年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経営の健全性について、前回の料金改定を実施した影響などで給水収益が増えた結果、本年度も経常収支比率は100%を上回ったが、料金回収率が100%を下回った。給水収益は増えたが、物価・燃料費の高騰や漏水修繕の増加等により、費用が増加したためである。

人口減少や節水意識の高まり等により、水道料金の減収が危惧される。

経営の効率性については、前年度と同様に施設利用率、有収率共に低く、効率的な運用ができていない状況である。特に有収率については、類似団体平均値及び全国平均と比べて数値が著しく低いうえに、減少に歯止めがかからない状況である。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び管路経年化率から、どちらも類似団体平均値及び全国平均を上回っており、水道施設の老朽化が進んでいることがわかる。管路更新率も依然として類似団体平均や全国平均より下回っており、老朽管の更新が進んでいないことがわかる。

## 全体総括

料金改定の実施により給水収益が増えた一方で、費用の増加などによって給水原価が高い状況であるため、収支バランスは依然悪い状況にある。

管路の経年化が進んでいる一方、更新が追いついていないため、漏水事故が多発し、有収率低下の一因となっている。

今後は、withコロナ・アフターコロナや人口減少、高齢化社会を見据えて水道ビジョンや経営戦略等の計画の見直しを行い、経営の健全化と有収率の向上を図ってまいります。